

大阪府養護教育研究会研究部・LD教育プロジェクト 夏季1日研修会 報告

平成18年8月29日、夏の暑いさなか、八尾市文化会館プリズムホールにて府養研研究部とLD教育プロジェクトによる夏季1日研修会が行われました。以下、内容をご報告いたします。

(1) 午前の部

分科会1 高槻市障害児教育研究会担当

「ひらがなのスクリーニングテストの実施について」「読み書きの指導事例」

1、高槻市の特別支援教育の取り組みの経過

- ・平成12年度、「LD等の教育相談」から始まり、現在の状況までの報告。
- ・サポートチーム〈専門家チーム〉の構成メンバーについて。
- ・各学校からの相談の流れ。

2、相談内容の具体例

- ・LDの子どもたちの相談は、少ない。
- ・構音障害を主訴として、通級に来る子の中に、読み書きの問題を持つ子がたくさんいる。
- ・二次障害がおこってから、読み書きの問題が発見される。

→読み書きの問題をもつ子の早期発見の必要性



3、ひらがなスクリーニングテストの作成

平成16年度、市内小学校1年生に、一斉にスクリーニングテストを呼びかけ、実施。
(テストの内容)

- ① モーラ数数え
 - ② ひらがな読み
 - ③ ひらがな単語聴写
- ・スクリーニングの基礎データの紹介
 - ・スクリーニングテストを指導に生かすための、市障研での取り組み

4、通級での具体的事例3例

主訴
アセスメント
指導内容

分科会2 和泉LD・ADHD研究会担当

「地域に広げる子どもたちの支援－NPO法人立ち上げをめざして－」

発表者・・・和泉市立緑ヶ丘小 松田さち子・藤原まち子
和泉市立青葉はつが野小 浅井良美

分科会2では、NPO法人「ぷちとまとの会」の立ち上げをめざした取り組みが報告されました。「ぷちとまとの会」とは、保護者、ボランティア、障害を持つ人たちが、みんなで知恵を出し合って活動しようという会です。

初めにその原点となった、子ども祭りや若つど、デイキャンプ、遠足、旅行等、「なか

まの輪が広がっていく」養護学級の活動が映像で紹介されました。次に、「立ち上げのきっかけ」となる働く保護者の思いや不安、子どもの将来の就労等、自分たちの力でNPOを立ち上げよう



・・・という思いに至るまでの経過が報告されました。また、NPO法人認証に向けての取り組みでは、行政やボランティアとの違いや活動分野等についての説明がなされ、参加者も熱心に耳を傾けていました。さらに、和泉のNPO法人「ほわほわの会」の宮崎さんが、参加者の質問に答え、法人としての組織や、収益事業、大阪府の委託事業等、ほわほわの会の活動内容等について、くわしく話してくださいました。

参加者のアンケートには、「ぶちとまとの会」にボランティアとしてお手伝いしたい・地域支援について多くのことを学びました・養護学級担任として、子どもたちの放課後や卒業後の心配を、お母さんたちと共に考えていこうという実践発表は素晴らしいものでした・等、たくさんの感想や意見が寄せられました。

最後になりましたが、法人化立ち上げに向け、「夢を持つこと、つながること、あきらめないこと・・・」と、目を輝かせて語る松田先生の言葉がとても印象的で、会場は熱気に満ちていました。

分科会3 北河内 LD 研究会担当

伊丹昌一氏による講義「K-ABC 入門編」

昨年度の夏期一日研修会の続編として、本年度は教育アセスメントバッテリーとして欠かすことのできない K-ABC 入門研修を行いました。

診断名にとらわれることなく、一人一人の子どもの教育的ニーズを的確に把握するため、WISC-!) 等と組み合わせられて使うことの多い K-ABC の内容から採点方法・結果の処理・尺度間の比較・プロフィール分析・認知処理能力に応じた指導法・事例まで、短時間に笑いを交えながらの濃い内容の研修でした。

○ K-ABC について

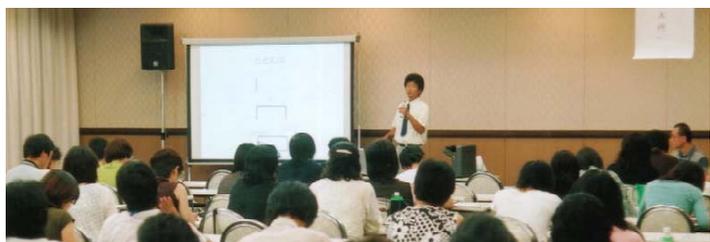
課題をどのように処理して行くかというプロセスを重視した検査である。

14 の下位検査で構成され

・認知処理尺度 ・同時処理尺度・継次処理尺度・習得度尺度であらわされる。

○継次処理能力が強い子どもへの指導法

段階的な考え方
部分から全体へ
順序性の重視
聴覚的手がかりの重視
言語的手がかりの重視



○同時処理能力が強い子どもへの指導法

全体をふまえた教え方
全体から部分へ
関連性の重視
視覚的手がかりの重視
運動的手がかりの重視

○レベル2のプロフィール分析

○実際の指導事例 AD/HD の二次障害から不登校状態に陥った小6男児の指導事例

今回の内容を知っておくだけで、保護者から受け取った検査結果を、やや余裕を持って見ることができ、指導法の手がかりを見つかることができます。証拠に基づいた仮説を立て、指導方法を考えることで効率的な指導を行えることを再認識しました。

分科会4 堺 LD 研究会担当山田充氏によるミニ講演「ADHD と学習困難」
—支援のあり方を考える—

「授業中に何もしない」という3人の子どもたちの例を挙げ、その原因がどこにあるのかによって支援の方法が変わってくること、また、その支援をどう行ったかが具体的に説明された。



特別支援教育のあらたな対象となる軽度発達障害（境界線領域の知的障害、広汎性発達障害、LD、ADHD）について、その障害の特性と対応の仕方についてひとつずつ詳しく説明がなされた。

その中から、ADHDの特徴を、不注意優勢型、多動 - 衝動性優先型、混合型に分け、さらに詳しく説明があった。また、それぞれの特徴を持つ子どもの事例を挙げ、その支援の仕方を具体的に示した。その支援の中で、大切にしなければいけないことは、次の点である。

*自己コントロールできる力を育てること・・・困った行動を周りから注意しているだけでなく、自分で行動修正できるように訓練していく。

*自尊感情を育てること・・・自分ができていないことがわかるだけに、自尊心が傷つけられやすい。よい面を強調し、少しでも頑張れたことをほめていく。

(2) 午後の部

講演「発達障害と二次障害 —予防法と対処法—」
講師 小栗正幸氏

ホールは400名近い参加者で満員となり、活気にあふれていました。

<内容>

非行化したことで初めて発達障害に気づかされる現実。支援の機会を逸してしまったがために、自尊心の低下によって発現する二次障害によって、発達障害が見えにくくなっている。

○二次障害の症状（二次障害＝非行ではない）

- ・勉強に対する無気力
- ・親や教師への反抗
- ・平気で次々うそをつく
- ・弱いものいじめをする
- ・人のものを盗む
- ・夜遊びが目立つ
- ・家出をする
- ・生き物をいたぶる
- ・ナイフ状の物を持ち歩く
- ・引きこもり、家庭内暴力、不登校等
- ・抑うつ、強迫、解離、心身症など



○二次障害の予防策

- ・勉強面でのサポートー勉強嫌いへの対応ー行動の原理に矛盾しないやり方で
- ・生活の質を高めるサポートー趣味と友達ー子どもの指向性をアセスメント
- ・生活管理能力を育てるサポートー集団行動スキルやこだわりに対する代替行動

○二次障害の対処法

- ・予防的サポートの手法は必携（なぜサイフを盗ったか、そこにサイフがあったから・・・）
- ・保護者との共同教育体制が必携（子どもへの言葉かけ等の注意、有効な言葉の吟味）
- ・行動マネジメントとペアレントトレーニング（実際場面での行動を心地よく）

○挑発的行動への対処法

- ・周囲の状況を分かりやすくする（自由にさせるのは有効でない）
- ・望ましいモデルを示して模倣しやすくする（自分で考え自分の判断で行動するのは×）
- ・観察可能な行動を指導対象にする。（背景にある心理状態は指導対象として有効でない）
- ・具体的な小さな変化を起こすようにフィードバックする（成長をじっと待つのは×）
- ・自分の変化が子どもにも分かることを重視する。（人生観とか重視するのは有効でない）

○保護者に対する対応

言ってしまうがちな禁句

「もっと愛情を注いで云々」（連携が破壊する場合がある）

「お子さんのことで困っているのですが・・・」（「あなたは出て行け」というに等しい）

適切なメッセージ

「お子さんが困っています」（主役は子ども）

「うまくいく方法は必ずあると思います」

「できるだけ効果の上がる方法を見つけたいと思います」

その他、親の協力を引き出す対応方法ー親の本音に焦点を当てるーなどのやり方の紹介もありました。

発達障害児に有効な指導法は、間違いなく他の子どもにとっても有効ということでした。

満員の参加者は終始、熱心に講演に聞き入っていました。

